

AR Newsletter

2025年12月号



@LITTLE_EDO_SAWARA

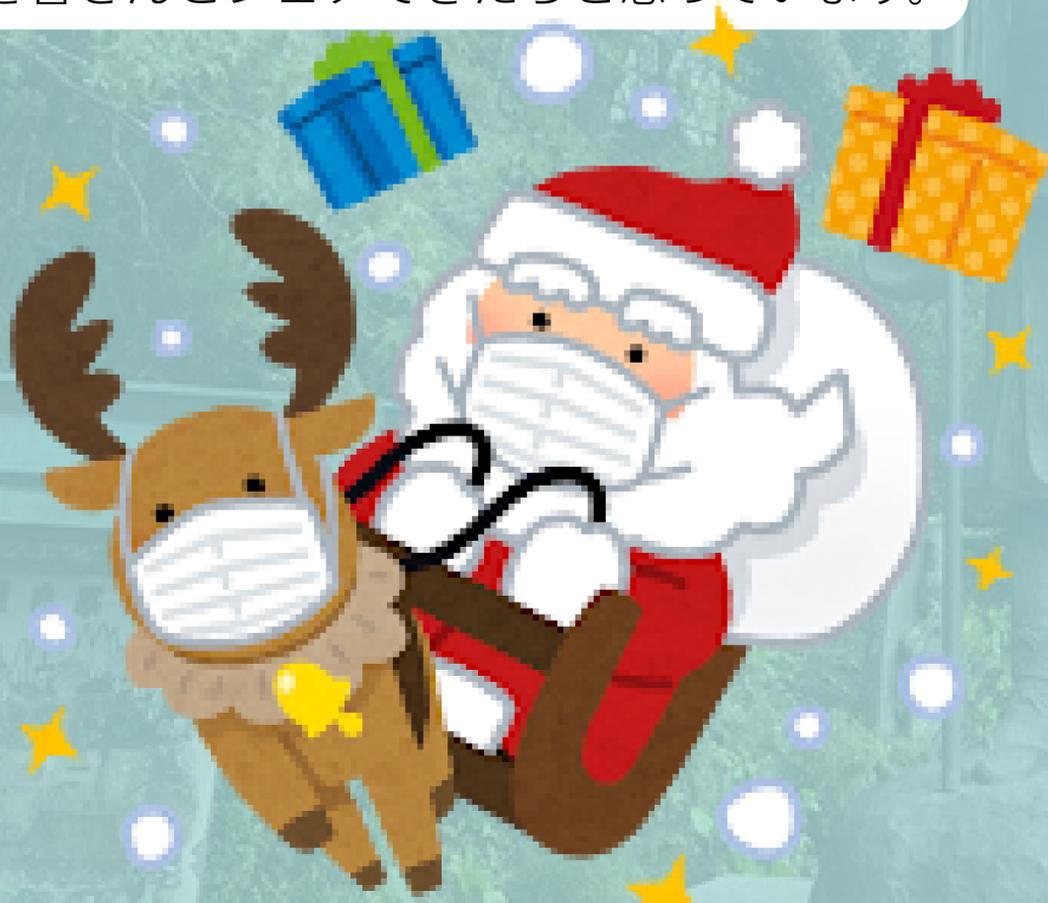
Instagram



Facebook

外はすっかり冷えてきましたね。私は寒さ対策をかなり怠っており、日本の冬を初めて経験するわけではないのに夏服+パーカー1枚で出勤している今日この頃。このニュースレターが出る頃には一旦帰国する予定なので、日本に戻る時にしっかりと暖かい洋服を持って帰ってきたいと思います。

ということで、やっとクリスマスがやってきました！私にとってクリスマスはアメリカの数ある祝祭日の中で一番思い出がたくさんあり、そして一番懐かしくなる祝日です。日本とは違い、アメリカではクリスマスは恋人ではなく家族と過ごす習慣があり、イタリアン系アメリカ人の家族は特に親戚の大集合で祝うことが多いです。私たちの場合は大体30人で毎年集まり、クリスマスと一緒に祝って過ごします。今回のニュースレターでは、私の家族、親戚とのクリスマスの様子を皆さんとシェアできたらと思っています。





家族ごとに異なる習慣があるでしょうけれど、クリスマスの食文化はアメリカと日本とでだいぶ違うと思います。勝手なイメージですが日本のクリスマスといえばケンタッキーが真っ先に思い浮かびます。私の家族の場合は、幼い頃からイブは「七魚の祝宴」（英語では

「Feast of Seven Fishes」と言います。和訳はGoogleに任せました）と言って、名前の通り7種類の魚を調理して宴をします。母方の祖父母がまだふたりとも元気に生きていた頃、この日をもものすごく盛大に祝っていました。私の祖父母の小さな一軒家に10数人から20人の親戚が集まり、みんなで海鮮料理をいっぱい食べて、大人達がお酒などを飲んでいる傍ら子供がテーブルゲームを楽しく遊んでいました。特に好きだったのはモノポリーというゲームで、何時間もいとこ達と妹とでのめり込んでいたのをいまだにはっきり覚えています。

祖父は数年前に亡くなったたということもあって、母の実家で七魚の祝宴を祝う余裕がなくなってきているので、ここ数年で新しい習慣が定着しました。母のいとこが「たまにはみんなにご飯でも奢りたい」というので、母のいとこの家族がお店を選び外食をご馳走してくれます。最初の年は中華料理、去年はメキシカン、色んな料理を楽しみつつ祖母の負担を減らそうというのも目的の一つでした。ご飯のあとでその人の家でデザートを食べたりしながら親戚とゆっくり過ごします。

世代交代ではないのですが、いとこ達の結婚や引っ越し、私の世代が大人になるに連れ、昔のようにみんなで集まるのが難しくなってきました。ここ数年ご馳走してくれた母のいとこが（私のはとこに当たる）娘と孫に会いにフロリダ州まで行きますので、今年は久しぶりに魚の宴をやる予定だそうです。私の祖母は来年90歳になるのですが、まだまだ親戚をもてなす気満々ですすでにメニューを決めているらしいです。

